

令和6年度　こども園（保育園）関係者評価
園評価・評価委員最終評価シート
子育てセンターにじいろ

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価
評価日時： 令和 7 年 2月 4日（火） 10：00 ～ 11：00

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

わたしていいいな あなたもいいね じぶんできめる みんなのために

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

令和4年4月に開園した子育てセンターにじいろは、袋井市の公立3園を統合民営化し幼保連携型認定こども園となり今年3年目を迎えました。にじいろに通ってくる一人ひとりが当園の教育・保育目標「わたしていいいな あなたもいいね じぶんできめる みんなのために」のもと、わたしていいいなと思える気持ちを大切に、子どもにとって、職員にとって、尊厳を守った保育と4つの承認（存在・意欲・行動・成果）を実践してまいります。今年度の重点目標は教育・保育目標の中から「あなたもいいね」としました。小さい子から大きい子まで様々な人との関りの中で個々の素敵なところをたくさん見つけ、自己肯定感を育むと共に、相手の想いに気づき、次へと「つなぐ」所に視点を置き、遊びの連続性、繰り返しの中で経験を培う保育を目指します。職員の取り組みとしては、子どもたちの主体性な遊びの連続性について学びを深めるために子どものつぶやきや姿をよく観察しそれを活かした環境を整えることで、次の活動へつながり、にじいろの活動が楽しみになる保育を創ります。にじいろの保育の質の向上となるよう、よりよい教育・保育の実践を展開していきたいと考えています。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	3	○グランドデザインは、今だけではなく今後を見据えた姿や図になっているところが分かりやすい。 ○毎月各自振り返りシートへの記入をし、目標を振り返る機会となった。 ○年度初めに園長から重点目標の説明を聞き、自分の中に目標を落とし込むことができた。 ●目標を意識しているが、取り組みについては日々の慌ただしさの中で意識が薄くなることがある。	3	○グランドデザインはシンプルで分かりやすいと思う。 ○重点目標の中に、南の丘学園幼小中一貫教育における共通実践「4つの承認」が示されていて意識化が図られている。 ○先生一人ひとりが目標に対して意識して取り組んでくれていると思う。 ●目標を理解されているかどうかは保護者だとわからない。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	4	○季節や子ども達の姿、興味関心に合わせた環境設定を定期的に行うことができた。 ○大きな園庭、広い園内の環境を生かして子ども達が体をよく動かす活動をしている。 ○子どものつぶやきを拾い、意識的に保育教育活動につなげた。 ○年間、月、週の指導計画につながりを持たせることが出来た。 ●環境への取り組みについては職員間で意識の差がみられた。	4	○子どもの実態にあった遊びの環境設定が素晴らしい。子どもが主体的に環境に関わり、活動に夢中になって取り組む姿が多く見られた。 ○リズムを初め、様々な環境設定において計画を組んで保育活動をしていてくれると思う。 ○子どもたちの「気づき」に対して、先生方が丁寧に拾って教育保育活動をしてきているのではないかなと思う。

Ⅲ. 子どもにとっては 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る	○一日を園で過ごす子ども達にとって、毎日同じ日課で過ごす事は生活習慣の確立や安心感につながる。行事を日々の教育・保育活動の成果として保護者に見ていただく機会と捉えることで子どもが無理をせず行事に参加できた。 ○わらべうたやリズムを通して異年齢の交流ができた。 3 ○担当クラスの子もだけではなく、いろいろな子どもに声掛けが出来る。また「そよかぜ」があり個性を理解した関わりが出来ている。 ●子ども自ら主体的に遊ぶ環境作りが不十分だった。	○その子らしさを尊重して寄り添ってくれている。 ○普段過ごす中で園児からヒントを得て、それを元に遊んだりということ意識している。 ○異年齢の関わりを大切に活動が意図的に組まれていて、子ども同士の関わりの中で成長していく場が良い。 3 ○その子らしさを認めて関わる保育者の姿（待つ・見守る・応援する等）が見られ子ども理解がしっかりできていると感じた。
Ⅳ. ファミリーにとっては 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ	○以上児の保護者が保育室まで迎えに行くことを可能にし、担任と保護者が話す機会が増えたと感じる。 ○園の様子を丁寧に伝えることで信頼関係を築く事が出来た。年度当初に比べ保護者の表情が明るくなった。 3 ○一日先生を実施し、園の様子や園の食事を保護者に知ってもらう機会になった。 ●就学に向けての情報発信は年長以外の学年は意識が低くなりやすい。	○保護者が参加しやすい取り組みが工夫されている。 ○クラス担任だけでなく色々な職員が声を掛けたり関わったりすることは保護者の安心感に繋がっている。 ○一日先生は参観会と違った園や子どもたちの様子が見られた。 3 ●年長クラスの行事が多く、持ち物も多いので、年長のみ情報発信するなどでも良いと思う。
Ⅴ. 地域にとっては 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように	○支援センターは利用者が多く地域の方が来やすい雰囲気だと感じる。 ○地域の親子にとって、支援センター内で言語聴覚士や保健師や栄養士など専門的な助言を受けられる機会は貴重である。 3 ○支援センターの利用者やボランティアが増えていることから地域に根ざしてきたと感じる。 ●離乳食の紹介や絵本の貸し出しができていない。	○地域の皆様も信頼しており、なくてはならない存在となっている。 ○魅力的な施設になっていると思う。 ○支援センターは広く地域の人から利用があって魅力的な場を提供している。 4 ○子育てで悩んでいる保護者の相談窓口として機能している。 ●専門的な助言を受けられる体制が整っているというが、上手く親御さんに発信して利用できているのか疑問がある。
Ⅵ. スタッフにとっては 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ	○得意な事を活かしやすい職場である。苦手な事でもフォローし合える。 ○職員が思いやりを持ってコミュニケーションをとり、お互いが理解し合いながら仕事をしている。 ○文化を伝えることについては、こま、竹馬など職員が手本を見せながら伝えることが出来た。 4 ●職員の人数が多く、報連相の難しさを感じる。	○職員間でコミュニケーションを大切にし、連携しながら取り組む体制づくりができている。 ○左記に記載されている通りだと思う。 ○報告、相談、連絡の難しさはあると思うが、先生たち同士がよくコミュニケーションを取って行動してくれていると感じる。 4